

入選

水と私

徳島県 鳴門教育大学附属中学校 一年 先田 花奈

私の楽しみは三度の食事だ。白いご飯にからあげ、白いご飯にキムチ、白いご飯に焼き魚。脇役のように主役なのは白いご飯だ。我が家の白いご飯は、祖父母が育てたお米だ。

五月の連休は、祖父母の家のもみまきを手伝うのが私の年中行事になっている。土を入れた苗箱にたっぷりの水をかけ、もみをまく。土をかぶせた後にもしっかりと水をかける。水道につないだホースから流れ出る水はキラキラと日の光を浴びて輝き、私はおいしいお米の予感で胸がわくわくする。

ここから、祖父は毎日水をやるそうさ。その水は、田の横を流れる川からくみ上げた水だ。苗が育ち、田植えをする頃になると、この川の水を田に引き込む。そこから秋の収穫までたくさんの水を使って、米は作られる。

以前、祖母から聞いた話だが、昔はこの集落で作られた米は、最高級米として日本各地に出荷されていたそうさ。今と何が違うのかたずねてみたところ、

「いろいろ理由はあるだろうけど、水の違いも大きいだろうね。」

と教えてくれた。水洗トイレの普及や、石けん、洗剤を多用する生活スタイルになり、川を流れる水の質が悪くなっているらしい。

家庭から出される排水はきちんと処理されているはずでは、と思い調べてみると、「浄化槽」という言葉が目飛び込んできた。そういえば小学校の社会で学習したことを思い出した。徳島県には下水道はあまり普及していないこと、その代わり浄化槽が各家庭に設置されていることなどが、改めて分かった。

しかし、この浄化槽にもいろいろあるようだ。新設の場合、トイレや台所、お風呂などの排水を併せて浄化する「合併処理浄化槽」が義務づけられている。一方で、古い家庭ではトイレの水のみを処理する「単独

浄化槽」を使い続けていることも多くあるらしい。

また、祖父母の家では「合併処理浄化槽」が設置されているものの、納屋にある二台目の洗濯機や庭の洗い場などの排水は、そのまま溝を伝って川に流れ込んでいる。このような浄化されずに排水される生活用水も、存在している。

私の家も例外ではない。以前、我が家の浄化槽を点検してくれた方が、「槽内に油がたくさん浮かんでいる。」

と教えてくれた。油を流してしまったり、トイレトペーパーを使いきたりすると、浄化槽の処理能力が落ちることにつながる。何も知らずとはせず、水はきれいになって自然に返されていると無条件に考えていた自分が恥ずかしくなった。

私にできることは何だろう。まずは「知ること」だ。自分はどのくらい水を汚しているのか。その汚した水は、どうなっているのか。家では、学校では。社会全体では。そして、その水が地球をどう変えてしまっているのか。

もちろん、自分の水の使い方も見直したい。石けんやシャンプー、トイレトペーパーを使いすぎない、油を拭いてから食器を洗う。家族にも呼びかける。私にもできることはたくさんあるはずだ。

もうすぐ、祖父母の家では蛍が舞う。田の用水には、クロメダカが列をなす。水は命の源、自然から授かった贈り物。「自分が生きている間に何もなければいい。」そんな考え方をするのはなく、これから先の何百年、何千年、水の星と呼ばれるこの地球を守り抜くことを考えていきたい。一人一人の取り組みが合わされば、地球はもっと変わっていくだろう。世界中の人々が力を合わせるにはどうすればいいのか。自分にできることをしながら、私は考え続ける。

もみまきの手伝いは終わった。しかし、今年から、私の米作りはまだ

まだ続く。水を大切に使うという仕事は、私にもできる米作り。私は今からおいしいお米が楽しみでならない。